

MURC Focus

欧州議会選で鮮明となった EU の右派回帰

～注視される独仏国政への影響

調査部 副主任研究員 土田 陽介

- 欧州連合 (EU) では、閣僚理事会とともに立法機能を担う欧州議会の総選挙が6月6日から9日にかけて実施された。その結果、中道右派の政治党派「欧州人民党グループ」(EPP) が第1勢力の座を維持した。
- 一方で、有権者の環境対策への関心が弱まった結果、左派会派の議席が減少した。こうした民意の変化を受けて、欧州議会及び次期欧州委員会執行部のグリーン化戦略には一定の修正が入ると予想される。
- 今回の欧州議会選の結果は、ドイツとフランスという EU の二大国の国政にも強い影響を与えると考えられる。特にフランスでは、解散総選挙の結果、政権が「コアビタシオン」となる可能性が浮上している。

1. 鮮明となる右派回帰

欧州連合 (EU) では、閣僚理事会とともに立法機能を担う欧州議会の総選挙 (定数 720 議席) が、6月6日から9日にかけて実施された。即日開票の結果 (以下、11日7時時点の暫定値)、欧州委員会のウルズラ・フォンデアライエン委員長を擁する中道右派の政治党派「欧州人民党グループ」(EPP) が、獲得議席を改選前の 176 から 186 に増やすとともに、第1勢力の座を維持した (図表 1)。

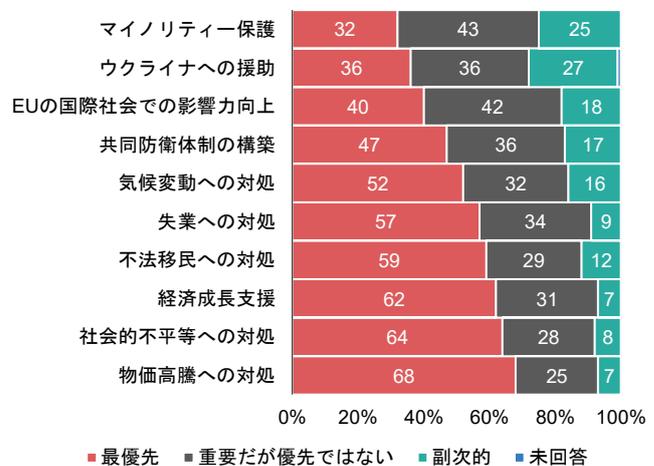
第2勢力には中道左派の「社会・民主主義進歩連盟」(S&D) が続いたが、獲得議席は 135 議席と改選前から 4 議席減少した。一方で、フランスのエマニュエル・マクロン大統領によって結党された同国の与党「再生」(Renaissance) が属する中道会派の「欧州刷新」(Renew) は、第3勢力の座を維持したものの、改選前から 23 議席を減らして 79 議席を獲得するにとどまった。

図表 1. 欧州議会選の結果 (獲得議席数)

政党名	立場	改選前	選挙結果
EPP	中道右派	176	186
S&D	中道左派	139	135
Renew	中道	102	79
ID	極右	69	73
ECR	EU懐疑派	49	58
G/EFA	環境	71	53
NI	無所属	62	45
The Left	極左	37	36
その他			55
定数		705	720

(注1) 日本時間11日7時時点の暫定値。
 (注2) その他にはハンガリーのフィデス、ドイツの AfD などが含まれる。
 (出所) 欧州連合 (EU)

図表 2. EU の有権者の関心



(出所) Euronews/ipsos

他方で、第 4 勢力である極右会派「アイデンティティと民主主義」(ID)や第 5 勢力の EU 懐疑派「欧州保守改革グループ」(ECR)が、議席を改選前から増やしている。また第 6 勢力である環境会派「欧州緑グループ・欧州自由連盟」(G/EFA)は議席を改選前から 18 減らし、53 議席の獲得にとどまった。第 7 勢力である無所属会派(NI)は議席を減らしたが、第 8 勢力である極左会派(The Left)も 1 議席を失った。

総評すると、今回の欧州議会選では、EPP や ID、ECR の議席増が示すように右派が勢力を強めた一方、S&D と G/EFA の議席減が物語るように左派が勢力を弱める結果となった。事前の世論調査(図表 2)では、左派が主張する気候変動への対応やマイノリティーの保護よりも、右派が主張する経済問題や移民問題に対する有権者の関心が高いことが判明しており、選挙結果はそうした有権者の関心を反映するものになった。

とはいえ、EPP と S&D、Renew の親 EU の 3 会派が議会の過半(720 議席中 400 議席)を占めたことで、欧州議会が空転する事態は回避されると考えられる。今後 EU は、行政部局である欧州委員会の次期執行体制の調整に入るが、第 1 勢力である EPP はすでに次期欧州委員長の候補としてフォンデアライエン氏を選出しているため、同氏の欧州委員長への再任が有力な情勢となっている。

2. グリーン化戦略に一定の修正が入る見通し

有権者の環境対策への関心が弱まった結果、環境対策に熱心だった欧州議会左派(S&D と G/EFA)の議席が減少することになった。こうした民意の変化を受けて、欧州議会及び欧州委員会の次期執行部のグリーン化戦略には一定の修正が入ると予想される。

フォンデアライエン委員長が率いる欧州委員会の現執行部は、その発足直後の 2019 年 12 月、環境対策と経済活動を両立させるための成長戦略「欧州グリーンディール」を発表し、グリーン化を経済成長のけん引役に位置付けた。さらに 2020 年のコロナショックを経て、欧州委員会はグリーン化とデジタル化を経済成長の両輪に定め、この 2 つの領域に対して多額の公的支援を施してきた。

2021 年には、いわゆる「Fit for 55」(2030 年までに温室効果ガスの排出量を 1990 年対比で 55%以上削減するための戦略プラン)を発表、2035 年までに新車登録を電気自動車(EV)などのゼロエミッション車(ZEV)に限定する方針など、野心的な目標を掲げた。

一連のグリーン化戦略は、フォンデアライエン委員長ら欧州委員会の現執行部と、S&D や G/EFA など欧州議会左派によって推進されてきた。一方で、欧州議会右派や閣僚理事会は、欧州委員会や欧州議会左派が掲げる目標は野心的過ぎるとして、現実的な側面から修正を求めた。その結果、ZEV の概念に合成燃料(e-fuel)を用いた内燃機関(ICE)車を含むといった修正が施されるようになった。

有権者の関心がシフトしたことで、EUの執行部は経済問題や移民問題への対応を迫られることになるだろう。一方で、グリーン化戦略に関しては、欧州議会右派の支持母体である産業界の声が反映され、現実的な方向への修正が進むと予想される。欧州委員会の次期執行部は「Fit for 55」を撤回しないだろうが、欧州議会右派の要求を受け入れ、中間目標の下方修正や最終期限の延長に同意するものと考えられる。

3. 注視される独仏国政への影響

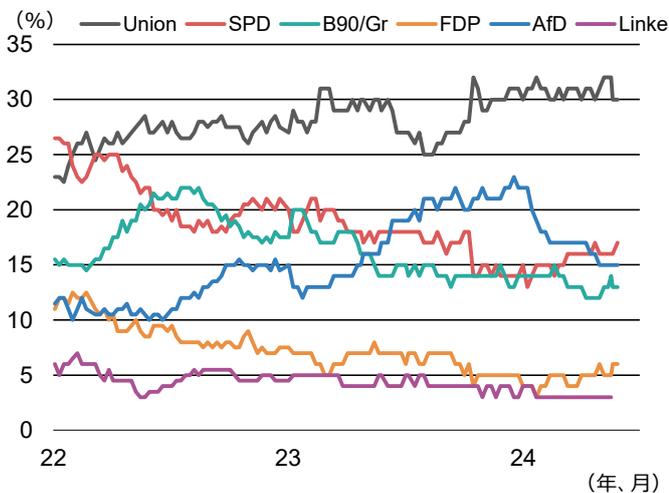
今回の欧州議会選の結果は、ドイツとフランスというEUの二大国の国政にも強い影響を与えることになる。まずドイツ国政への影響だが、現在の政権は、オラフ・ショルツ首相を擁する中道左派の社会民主党(SPD)と環境政党の同盟 90/緑の党(B90/Gr)、それに自由主義政党の自由民主党(FDP)の3党の連立内閣である。しかし3党の支持率は低迷しており、特に環境対策を担うB90/Grの失速は著しい(図表3)。

欧州議会選ではドイツから96議席が選出される。うち第1勢力は、中道右派のキリスト教民主同盟・同社会同盟(Union)であり、獲得議席数は29議席と改選前から変わらなかった。第2勢力となったのが極右政党である「ドイツのための選択肢」(AfD)であり、6議席増となる15議席を獲得した。反面で、B90/Grは9議席減の12議席を獲得するにとどまり、SPDの14議席(前回比2議席減)に次ぐ第4勢力に後退した。

以上の結果に鑑みれば、2025年10月までに実施される次期の総選挙でショルツ政権は敗北し、Unionが首班となる新政権が成立する展開がメインシナリオになるだろう。UnionがAfDではなく、SPDやFDPと連立を組む可能性は残っているが、少なくともB90/Grは政権から退場する公算が大きい。

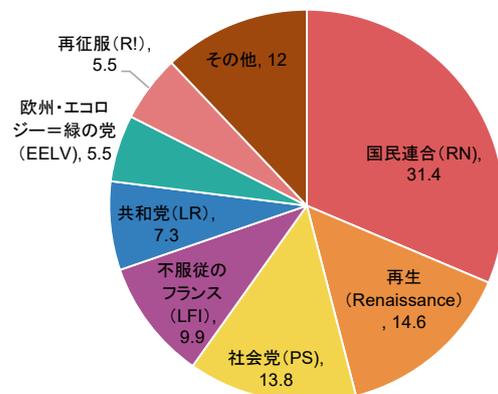
他方でフランス国政への影響である。欧州議会選で自身が名誉党首の中道政党「再生」(Renaissance)を含

図表3. ドイツの政党支持率



(出所) Forsa

図表4. フランス主要政党の欧州議会選での得票率



(注) 日本時間11日7時時点の暫定値。
(出所) EU

む中道会派が惨敗したことを受けて、マクロン大統領は即日、国民議会(下院)の解散に踏み切った。フランス下院選は条件付きの二回投票制で実施されるため、今後は6月30日に初回投票が行われ、7月7日に決選投票が行われることになる。

欧州議会選の結果(図表4)に鑑みれば、与党「再生」が議席を失うことは免れず、場合によっては極右とされる国民連合(RN)から首相が擁立される展開が視野に入る。RNは以前に比べると極右的な性格を弱め、現実的となっているが、一方でマクロン大統領のような親EU路線とは距離を置いている。そのため、RNから首相が選出され、政権がいわゆる「コアビタシオン」(大統領と首相の所属政党が異なる状態)となった場合、フランスの国政が停滞するとともに、フランスのEUにおけるリーダーシップが低下することになると予想される。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、執筆時点で信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。